

	異校種間、保護者、地域との連携	連携の意義や具体的内容および進め方について教師間で話し合い、計画的に実施する。	<p>B</p> <p>○近隣の保育所（園）、幼稚園、小学校との連携を継続して行っている。特に、幼小の円滑な接続にむけた授業参観、意見交流を学期毎に行っている。</p> <p>○本年度より、宝塚小学校の教員の保育参観、意見交流の機会を設け、幼児教育について共通理解を図った。</p> <p>○保護者のボランティア活動を得て、園児の自然、言語への関心を高め、保育活動の充実を図った。</p> <p>○千吉踊り、だんじりの曳航や防災訓練に参加し、地域文化や防災に関心を持つ機会としている。</p> <p>●保護者、地域連携について、教育課程の編成と関連させ、さらに充実する必要がある。</p> <p>◎小学校の教育課程について理解し、園児の円滑な接続に向け、架け橋プログラムを視野に入れた保育を行う。</p>	小学校との教員交流、園児児童交流も計画的に行われており、連携が着実に進んでいる。今後も幼児が円滑に小学校生活を送れるように連携を推進してもらいたい。
課題教育	人権教育	幼児の特性や発達を踏まえた人権意識を育てる。 教師自身の人権感覚を磨く。	<p>B</p> <p>○友達との関わりの中で、一人ひとりの良さを認められる仲間づくりを推進した。</p> <p>○幼児間のトラブルを解決する際に、互いの気持ちを伝える機会を設け、学級にも広げることによって人権意識の基礎を培うように努めた。</p> <p>○人権参観等の参観機会を設け、本園の目指す自己肯定感の涵養、多様性の理解について、保護者理解を進めた。</p> <p>●ちくちく言葉やふわふわ言葉など、幼児が生活で実践できる具体を提示する機会を設ける。</p> <p>◎人権研修等の職員間で学ぶ機会を設け、実践力の向上を図る。</p>	幼児の思いを受け止め、学級で話し合う機会を設けるなど、問題解決に向かうことが、生活の中で自然に実践できている。言葉に着目し、取り組んでいこうとする姿勢も評価できる。
	特別支援教育	関係機関と連携を図り、一人一人の発達や課題を明確にししながら、幼児の発達に即した支援内容を工夫する。	<p>B</p> <p>○指導主事や特別支援学校コーディネーターを招聘し、発達特性についての理解を深めた。また、個別支援についての共通理解を図り、一貫した支援を行った。</p> <p>○保護者と幼児の育ちや課題を共有し、連携を図った。</p> <p>●放課後デイサービスの事業所との連携を図っているが、さらに充実する必要がある。</p> <p>◎本年度構築した関係機関との連携を継続し、特別支援教育の推進に努める。</p>	積極艇に外部講師の指導助言を得る機会を設ける等、専門性を高め幼児理解に繋げようとする取り組みは評価できる。保護者連携のため情報提供も行っており、今後も、推進してもらいたい。
独自項目	子育て支援の推進	キッズサポーターの確保に勤め、預かり保育の充実を図る。 保護者に対し、子育て相談の充実を図る。 未就園児親子の支援を行う。	<p>B</p> <p>○キッズサポーターに多数の方に登録していただき、支援していただくことができた。</p> <p>○未就園児教室の実施、地域の子育てサークルへの場の提供により、保護者がつながる場となっている。</p> <p>○未就園児教室では、4歳の年齢幅を考慮した活動を行い、保育の工夫改善に努めた。</p> <p>●子育て相談等、市の施策の利用が少なかった。</p> <p>●預かり保育の徴収事務に不備があり、利用者にご迷惑をおかけした。</p> <p>◎預かり保育の充実に向け、引き続きキッズサポーターの確保に努める。園だよりコドモンを活用し、市の施策の周知を図る。</p>	預かり保育の充実に向け、サポーターの確保など、職員の業務遂行が円滑に行えるように尽力してもらいたい。 預かり保育の時間帯を伸ばすなど気軽に利用できるように改善してもらいたい。 未就園児教室や地域の子育てサークルの活動が本園への入園につながるような取り組みを行ってもらいたい。

保育環境整備	保育室や園庭等、良好な保育環境の維持改善を行う。	B	<p>○遊びに使える自然物や季節を感じることでできる環境となるように努めた。夏場の園庭での活動のため、テントやネットを活用して暑さ対策を行った。</p> <p>○遊びにより、保育室の環境を変化させていくなど、幼児の興味関心や意図的に気づかせたいことに合わせて再構築した。</p> <p>●一年間の活動を視野に入れ、余裕をもった環境整備を行う必要がある。</p> <p>◎教育課程、保育計画と関連付け、備品や教材の計画的購入を推進する。</p>	園児が生き生きと充実した遊びを行えるような環境の構築や設定した環境を再構築するなど、環境整備に対する姿勢は評価できる。今後も継続して取り組んでもらいたい。
--------	--------------------------	---	---	---

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者を対象としたアンケートを行事後のアンケート、幼稚園評価アンケートを年1回の実施やオープンスクールなど地域住民参加の行事を設定するなど、資料収集は十分である。これからも、自園の課題を捉えて充実した教育に取り組んでいくことが大切である。

6 総合的な学校関係者評価

職員が一つになって、一生懸命保育に取り組んでいることがよく分かった。いつも笑顔で温かく子どもたちを見守り、支えている。子どもたちも、行事などに参加するたび、成長していると思った。これからも、よりよい保育、幼稚園経営のため、努力してほしい。また、多くの評価項目でA評価にしてもよいのではないかと。

7 市教育委員会等への要望

幼児教育は、とても大切である。教育の一番の基礎となっている。園児の減少に歯止めがかからない現状である。本園への入園を希望してもらえるように、2年保育を選択しやすい施策や3年保育、給食の実施等、公立幼稚園のよさを維持できるように取り組んでほしい。

- (1) 評価の観点及び評価項目設定については、各園の実情に応じて、また各園独自の言葉で設定・作成してください。
- (2) 幼稚園が「1」「2」「3」をとりまとめて学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価委員会は、評価の結果を「4」「5」「6」に簡潔にまとめ、園は学校関係者評価の結果を踏まえて報告書を作成し報告してください。また結果の公表に努めてください。